

## 意見交換会開催内容（⑦宍戸小学校）

**日時：**平成24年6月20日（水）午後7時～8時15分

**場所：**宍戸小学校 体育館

**出席者：**12名

**意見：**笠間小学校に統合するよりも、もっと分散して小学校を配置したほうがいいのではないか。

**回答：**学区審議会でもそういう意見がありました。当初はどちらかという佐城小学校を残せないかという方向でしたが、東小学校が佐城小学校に来て少人数であることに変わりはなく、再び統合の可能性が高いという議論になりました。環境を良くするため最低でもクラス替えができることが条件になりますので、それならば東小学校は初めから笠間小学校に行ったほうが良いということになりました。東小学校が佐城小学校を飛び越えて笠間小学校に行くことになると、佐城小学校は東中学校と笠間中学校へ分散進学していることから、むしろ一緒に動くほうが良いのではないかという話合いの流れだったと思います。30人の委員さんが12回の学区審議会で協議した中で、やはり複数の学級がある学校で学ばせたいという意見に最終的にまとまって、この答申のようになったわけです。

**意見：**宍戸小学校が宍戸駅の近くにあった当時、上加賀田と手越は宍戸小学校の学区だった。せっかく笠間市が合併したのだから、地区を越えた見直しも検討すべきではないか。

**回答：**上加賀田と手越は南小学校の学区ですが、南小学校で開催した意見交換会でも同様の意見が出ました。今のご意見は将来的に南小学校の学区の見直しをすることになった場合の1つの検討材料になると思いますので、旧市町にこだわらない見直しも考えられます。

**意見：**北川根小学校には1年生から自転車通学の子どもたちがいるが、バス通学はできないか。

**回答：**現時点でバスの運行は難しいと思います。ただ、将来的には考えていかなければならない課題であるという認識はあります。

**意見：**ベリオ・コリナ会区から宍戸小学校までは通学距離が遠いため、子どもたちは栗畑を抜けて近道をしている。こうした場所を通学路として認めることはできないか。

**回答：**通学路は子どもたちの安全を第一に考えて、学校・保護者間で協議して指定しています。また、管理面を考えて一般的に公道としています。特殊なケースとして私有地の所有者の理解を得て準公道扱いとすることは可能と思われそうですが、今後の課題として検討させていただきます。

**意見：**地元で地区懇談会を開催しているが、通学路の危険性が指摘されている。答申の付帯意見として通学の安全策が要望されているが、笠間市全体としての対策もお願いしたい。

**回答：**統合の対象地区だけでなく、市全体の通学の安全についても合わせて検討していく必要があると考えています。

**意見：**統合になった場合の通学距離や通学時間、通学路周辺の安心度や危険度を直接現場で検証してほしい。

**回答：**学区審議会では各校の保護者の代表の皆さんとともに各校の通学距離などについて話し合ってきましたし、教育委員会でも状況を承知しています。実施計画の策定にあたっては、子どもたちの負担の解消と安全性の確保という視点に立って進めていきたいと考えています。

**意見：**東小学校の子どもたちが笠間小学校に通う場合の通学距離と通学時間について伺いたい。

**回答：**笠間小学校までは10kmほどになると思います。通学時間については今後検証していきます。

**意見：**小学校を30人学級、中学校を35人学級にしていこうという計画だが、見通しはあるのか。

**回答：**国が少人数学級を進めていくことには変わりはありませんし、市でも計画どおり進めていきます。

**意見：**少子化と学校規模の現状から学校の統合というとらえ方も当然出てくると思うが、笠間市の少子化対策について説明してほしい。

**回答：**笠間市では定住化対策と少子化支援策を同時に進めています。具体的には、笠間市の保育料は県内でも下のほうになっていますし、茨城県が小学3年生まで助成している医療費を笠間市ではさらに小学6年生まで助成しています。また、不妊治療費の助成や就職に有利な資格取得のための助成制度も設けています。ほかにも様々な事業を展開していますが、これらの施策による効果が直ちに現れてこないという面もあります。また、笠間市には就労場所が少ないということも

定住化がなかなか進まない要因になっていると思います。

**意見：**市でもお見合いや独身の子を持つ親同士の交流会などを進めているが、子どもを少しでも多く産んでもらえるような施策をお願いしたい。

**回答：**市でも婚活を計画したり、出会いの場を提供する団体への登録費用を助成したりしています。また、子どもたちは家庭や学校、地域の中で成長していきますが、学校教育においては様々な教材や道徳の授業によって家族の良さや互いに支え合っていくことの大切さを学んでいきます。家族を大切に作る心、そして社会に出て自分の大切な家族を持つことの意義を社会全体で共有していかなければならないと考えています。

**意見：**既に統合を実施した自治体があるが、子どもたちや保護者の対応について調査しているのか。

**回答：**先に実施した自治体の聞き取り調査を実施しています。それによると、親が心配するよりも子どもたちには適応力があるということが大方の意見です。統合校に勤務していた先生がいらしていますので、お話を伺います。

**回答：**平成23年度に統合した城里町の桂小学校に勤務していました。一番危惧していたのは、子どもたちが新しい学校に慣れることができるのか、いじめが起こらないかということでしたが、統合前の学校が違って幼稚園や保育所で一緒だった子どもたちに再会できたことが幸いしたようで、早くから慣れることができました。そして、新たなコミュニティができたという意味でも、心配が空振りに終わって良かったと思っています。